

四半期報告書

(第91期第1四半期)

自 平成28年6月1日

至 平成28年8月31日

株式会社中北製作所

E01649

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	3
1 株式等の状況	3
(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) ライツプランの内容	3
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(6) 大株主の状況	3
(7) 議決権の状況	4
2 役員の状況	4
第4 経理の状況	5
1 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
2 その他	10
第二部 提出会社の保証会社等の情報	11
[四半期レビュー報告書]	
[確認書表紙]	
[確認書]	

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年10月13日
【四半期会計期間】	第91期第1四半期（自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日）
【会社名】	株式会社中北製作所
【英訳名】	NAKAKITA SEISAKUSHO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中北 健一
【本店の所在の場所】	大阪府大東市深野南町1番1号
【電話番号】	(072) - 871 - 1331
【事務連絡者氏名】	経理部長 林 昌宏
【最寄りの連絡場所】	大阪府大東市深野南町1番1号
【電話番号】	(072) - 871 - 1331
【事務連絡者氏名】	経理部長 林 昌宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第1四半期 累計期間	第91期 第1四半期 累計期間	第90期
会計期間	自平成27年 6月1日 至平成27年 8月31日	自平成28年 6月1日 至平成28年 8月31日	自平成27年 6月1日 至平成28年 5月31日
売上高 (千円)	4,006,093	5,327,197	19,536,735
経常利益 (千円)	200,634	443,771	1,274,809
四半期(当期)純利益 (千円)	129,168	297,682	846,612
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,150,000	1,150,000	1,150,000
発行済株式総数 (千株)	19,164	19,164	19,164
純資産額 (千円)	19,330,017	19,651,804	19,574,614
総資産額 (千円)	24,779,079	26,242,350	26,646,781
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	6.84	16.14	45.17
※潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	20.00
自己資本比率 (%)	78.01	74.89	73.46

(注) 1. ※当社は、潜在株式がありませんので、数値を記載しておりません。

2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間における世界経済は、米国では景気は概ね堅調に推移し、欧州でも主要国に緩やかな回復がみられたものの、中国では景気は緩やかに減速し、また、英国の国民投票でEU離脱が選択されたこともあり、全体として先行きの不透明感が強まりました。

わが国経済は、雇用・所得環境の改善がみられ、個人消費も概ね堅調に推移し、緩やかな回復基調にありましたが、円高の進行による企業収益の下振れも懸念され、景気は持ち直しつつあるものの、先行き不透明な状況にありました。

このような経営環境にあつて当社は、主要な販売先であります造船業界に加え、発電プラントの受注についても積極的な営業活動を展開し、修理やメンテナンス関連の部品獲得にも注力しました。また、社内においても、生産性向上に関する改革・改善に取り組んでおります。

当第1四半期累計期間における受注高は、4,805百万円（対前年同期比12.4%減）となり、678百万円前年同期を下回りました。品種別にみますと、自動調節弁2,176百万円（対前年同期比42百万円増）、バタフライ弁1,171百万円（対前年同期比601百万円減）、遠隔操作装置1,457百万円（対前年同期比119百万円減）となりました。

売上高では、5,327百万円（対前年同期比33.0%増）となり、1,321百万円前年同期を上回りました。品種別では、自動調節弁2,150百万円（対前年同期比203百万円増）、バタフライ弁1,763百万円（対前年同期比808百万円増）、遠隔操作装置1,413百万円（対前年同期比308百万円増）となり、いずれの品種におきましても増加となりました。輸出関連の売上高は、1,158百万円となり、前年同期を436百万円上回りました。当第1四半期会計期間末の受注残高は期首に比べて521百万円減の15,748百万円となりました。

利益面では、当社の技術力をより発揮できるタンカー向け製品の販売増加により、経常利益は443百万円（対前年同期比121.2%増）、四半期純利益は297百万円（対前年同期比130.5%増）といずれも大幅な増益となりました。

なお、当社はバルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、上記業績についてはセグメント別に代えて品種別に示しております。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べ404百万円減少の26,242百万円となりました。これは主として、現金及び預金が258百万円、売上債権が292百万円増加したものの、有価証券が405百万円、投資有価証券が554百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部は、前事業年度末と比べ481百万円減少の6,590百万円となりました。これは主として、仕入債務が116百万円、賞与引当金が110百万円、未払法人税等が190百万円減少したこと等によるものであります。

純資産の部は、前事業年度末と比べ77百万円増加の19,651百万円となりました。これは主として、四半期純利益が297百万円、配当金の支払184百万円により、利益剰余金が17,101百万円となったこと、また、その他有価証券評価差額金が296百万円（前事業年度末と比べ36百万円の減少）となったこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。また同期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、13,085千円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

また、当社は、バルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けて記載はしていません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	76,164,000
計	76,164,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年10月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,164,000	19,164,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	19,164,000	19,164,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年6月1日～ 平成28年8月31日	—	19,164	—	1,150,000	—	515,871

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年5月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 723,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 18,382,000	18,382	—
単元未満株式	普通株式 59,000	—	—
発行済株式総数	19,164,000	—	—
総株主の議決権	—	18,382	—

② 【自己株式等】

平成28年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） 株中北製作所	大阪府大東市深野 南町1番1号	723,000	—	723,000	3.77
計	—	723,000	—	723,000	3.77

（注）当第1四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は723,552株、その発行済株式総数に対する所有株式数の割合は3.78%であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,810,465	6,068,947
受取手形及び売掛金	7,088,122	7,097,965
電子記録債権	1,044,479	1,326,927
有価証券	2,008,456	1,602,986
商品及び製品	1,086,915	1,159,109
仕掛品	1,422,915	1,454,583
原材料及び貯蔵品	1,663,137	1,682,910
その他	782,328	704,939
貸倒引当金	△40,670	△42,120
流動資産合計	20,866,149	21,056,251
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,551,106	1,551,106
その他(純額)	1,633,757	1,590,420
有形固定資産合計	3,184,863	3,141,526
無形固定資産		
	16,851	17,778
投資その他の資産		
投資有価証券	2,440,782	1,886,479
その他	139,601	141,781
貸倒引当金	△1,467	△1,467
投資その他の資産合計	2,578,915	2,026,793
固定資産合計	5,780,631	5,186,098
資産合計	26,646,781	26,242,350
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,508,189	1,393,410
電子記録債務	2,311,159	2,308,960
賞与引当金	220,000	110,000
製品保証引当金	117,000	118,750
未払法人税等	334,890	143,929
その他	458,037	399,850
流動負債合計	4,949,276	4,474,901
固定負債		
長期借入金	1,850,000	1,850,000
退職給付引当金	135,749	144,008
役員退職慰労引当金	45,160	45,160
資産除去債務	37,257	37,415
その他	54,723	39,059
固定負債合計	2,122,890	2,115,644
負債合計	7,072,166	6,590,545

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,150,000	1,150,000
資本剰余金	1,479,586	1,479,586
利益剰余金	16,988,011	17,101,289
自己株式	△375,625	△375,647
株主資本合計	19,241,973	19,355,229
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	332,640	296,575
評価・換算差額等合計	332,640	296,575
純資産合計	19,574,614	19,651,804
負債純資産合計	26,646,781	26,242,350

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)
売上高	4,006,093	5,327,197
売上原価	3,437,784	4,439,941
売上総利益	568,308	887,256
販売費及び一般管理費	417,930	478,904
営業利益	150,378	408,351
営業外収益		
受取利息	6,088	3,602
受取配当金	22,153	20,610
不動産賃貸料	32,194	32,194
為替差益	1,035	—
雑収入	2,923	2,846
営業外収益合計	64,394	59,253
営業外費用		
支払利息	3,190	2,754
不動産賃貸費用	9,839	9,658
為替差損	—	11,421
雑損失	1,107	0
営業外費用合計	14,137	23,833
経常利益	200,634	443,771
税引前四半期純利益	200,634	443,771
法人税等	71,466	146,089
四半期純利益	129,168	297,682

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日)	当第1四半期累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日)
減価償却費	65,919千円	64,187千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年8月28日 定時株主総会	普通株式	189,014	10.0	平成27年5月31日	平成27年8月31日	利益剰余金

II 当第1四半期累計期間(自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年8月30日 定時株主総会	普通株式	184,404	10.0	平成28年5月31日	平成28年8月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、バルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日)	当第1四半期累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	6円84銭	16円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	129,168	297,682
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	129,168	297,682
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,876	18,440

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年10月7日

株式会社中北製作所

取締役会 御中

優成監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 本間 洋一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 陶江 徹 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大好 慧 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社中北製作所の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの第91期事業年度の第1四半期会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社中北製作所の平成28年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。